

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ、スポーツキャリア演習
	学部・研究科等名	人間環境学部、経営学部、工学部
	担当教職員名・役職	佐藤真治(教授)、榎真一(教授)、入澤毅(教授)、部谷学(教授)、吉年慶一(講師)、波床正敏(教授)
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	271	
受入企業等数	155	
受入企業等名	株式会社東横イン、株式会社西原商会、大東市役所、株式会社webull、株式会社グルメ軒屋、公益社団法人大阪自然環境保全協会、一般財団法人大阪スポーツみどり財団、株式会社ウエルネス、株式会社東大阪スタジアム、株式会社ホンダ泉州販売等	
インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実際に企業で、営業活動同行、技術者としての業務、事務職の役割等を体験し、就職への理解を促す。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次~4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が在学中に民間企業や教育現場において将来のキャリアに関連した就業体験(インターンシップ)を行うことにより、希望する職業に就くための学習意欲を向上させること、社会の要請に応える資質を備えさせることを目的とする。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習を計3回実施している。インターンシップに参加する目的、業界研究、自己分析について学ぶ事でミスマッチを減らし、履歴書の書き方やビジネスマナーを身に着けた上で受入企業でのインターンシップに参加する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	受入企業からの学生へのコメントをフィードバックする事で、今後の就職活動に役立てる。また、学生と企業が参加する報告会を行い、情報共有を図っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中にキャリアセンター職員が受入企業に挨拶を兼ねて訪問し、学生のインターンシップに取り組む様子等の状況把握を行っている。

要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生に事前学習を含めたインターンシップ全体のアンケートや実習報告書を提出させ、改善点を見つけ、次年度のインターンシップに備えている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業への理解を深める為に、5日間以上のインターンシップを実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業に対して、学生一人一人の修了証明書の作成を依頼し、学生に対する評価を実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://wr19.osaka-sandai.ac.jp/cnt/Redirect/syllabus.html
問い合わせ先	大学等名	大阪産業大学
	担当部署名	事務部庶務課
	担当者役職名	課員
	担当者氏名	石井 正和
	電話番号	072-875-3001
	メールアドレス	masakazu@cnt.osaka-sandai.ac.jp